

2023 年度 保健学専攻履修要覧

1. 大阪大学大学院課程の教育目標

大阪大学は、「知の創造、継承及び実践」を使命とし、「地域に生き 世界に伸びる」をモットーに、学問の独立性と市民性を備えた世界水準の高度な教育研究を推進し、次代の社会を支え、人類の理想の実現をはかる有能な人材を社会に輩出することを目的とします。

その目的の実現のため、研究科及び全学的な教育研究組織において、

- 最先端かつ高度な専門性と深い学識
- 高度な教養
- 高度な国際性
- 高度なデザイン力

を身につけた知識基盤社会のリーダーとなるべき人材を育成します。

大阪大学の教育目標および各ポリシー（大学院課程）URL

https://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/announcement/main/policies/graduate_policy.html

2. 医学系研究科保健学専攻の目的

大阪大学の教育目標を受けて、医学系研究科保健学専攻博士前期課程では、日進月歩の現代医療のニーズに応えられる医療技術と知識を持ち、サイエンスの進歩に適応できる柔軟な思考力と高度で幅広い知識や実行力を備えた保健医療者を養成します。さらに博士後期課程では、知的リーダーシップを発揮できる保健学・看護学・医療技術学の高度医療者・研究者の育成を図ります。

医学系研究科保健学専攻の教育目標および各ポリシーURL

https://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/announcement/main/policies/g-allied_policy.html

3. 保健学専攻の教育課程

保健学専攻の教育課程は、博士前期課程（以下、前期課程）と、博士後期課程（以下、後期課程）に区分されます。前期課程の標準修業年限は2年、後期課程の標準修業年限は3年です。

なお学務に関わる事柄は、大阪大学学務情報システム（以下、KOAN）で確認し、各自で必要な手続きを行います。

大阪大学学務情報システム「KOAN」について

授業概要の参照、履修登録、成績確認等学務に関わる事柄を処理する Web システム。学内外のパソコン等からアクセス可能で、入学当初のガイダンスで配付される大阪大学個人 ID 通知書に記載されたログイン ID・パスワードにより、マイハンダイ (<https://my.osaka-u.ac.jp/>) からログインする。

入力・操作方法については、KOAN マニュアル (<https://koan.osaka-u.ac.jp/portal/manual/student/man/j/g-kidou.htm>) を参照のこと。

3-1. 前期課程の教育

(1) 学位プログラム

前期課程には8つの教育課程からなる学位プログラムがあり（表1）、修了要件を満たせば修士の学位が授与されます。

【修了要件】

次の3要件をすべて満たすこと

- ・学位プログラムが定める授業科目から所定の単位を修得する
- ・2年以上在学する※
- ・必要な研究指導を受け修士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格する

※ 研究科教授会が優れた業績を上げたと認める者については、1年以上在学すれば足りるものとする

表1 前期課程の学位プログラム

学位プログラム名	学位	詳細
統合保健看護科学研究プログラム	修士(看護学)又は修士(保健学)	表1-1
医療画像技術科学研究プログラム	修士(保健学)	表1-2
医療検査技術科学研究プログラム	修士(保健学)	表1-3
がん専門医療人材養成プログラム 高度がん看護専門看護師コース	修士(看護学)又は修士(保健学)	表1-4
がん専門医療人材養成プログラム 先端医学物理コース	修士(保健学)	表1-5
がん専門医療人材養成プログラム ゲノム世代細胞検査高度診断コース	修士(保健学)	表1-6
がん専門医療人材養成プログラム 分子ゲノムコース	修士(保健学)	表1-7
ナースプラクティショナー教育プログラム	修士(看護学)又は修士(保健学)	表1-8

授業科目の詳細についてはKOANに示されている授業計画（以下、シラバス）を参照してください。

表 1-1 統合保健看護科学研究プログラム

区分	授業科目	単位	高度国際 性涵養 教育科目	備考
選択必修科目 A	看護実践開発科学実験・実習	4		
	看護実践開発科学特別研究	4		
	生命育成看護科学実験・実習	4		
	生命育成看護科学特別研究	4		
	総合ヘルスプロモーション科学実験・実習	4		
	総合ヘルスプロモーション科学特別研究	4		
	遺伝カウンセリング特別研究Ⅰ	4		遺伝科目
	遺伝カウンセリング特別研究Ⅱ	4		遺伝科目
選択必修科目 B	国際疾病疫学	2	○	
	中医看護学	1	○	
	中医学概論	1	○	
	国際保健医療サイエンス特論	2	○	
	母性ヘルスケア学特論Ⅱ	2	○	
	母性ヘルスケア学特論Ⅲ	2	○	
	分子神経生理学特論	2	○	
	高度専門看護職教育とヘルスケアサービス	2	○	
選択必修科目 C	臨床画像診断学特論Ⅰ	1		高度教養教育科目
	臨床画像診断学特論Ⅱ	1		高度教養教育科目
	放射線制御・生物学特論Ⅰ	1		高度教養教育科目
	放射線制御・生物学特論Ⅱ	1		高度教養教育科目
	核医学特論Ⅰ	1		高度教養教育科目
	核医学特論Ⅱ	1		高度教養教育科目
	生体光学・医用画像工学特論Ⅰ	1		高度教養教育科目
	生体光学・医用画像工学特論Ⅱ	1		高度教養教育科目
	医療情報学特論	2		高度教養教育科目
	先端医用物理工学特論	2		高度教養教育科目
	脳機能画像解析学特論	2		高度教養教育科目
	生体システム学特論	2		高度教養教育科目
	再生発生医学特論	2		高度教養教育科目
	免疫機能解析学特論	2		高度教養教育科目
	細胞分子遺伝学特論	2		高度教養教育科目
	肝疾患代謝学	2		高度教養教育科目
	分子代謝病態学特論	2		高度教養教育科目
	分子腫瘍医学特論	2		高度教養教育科目
	生命機能解析学特論	2		高度教養教育科目

	スリープテクノロジー特論	2		高度教養教育科目
	病原微生物学特論	2		高度教養教育科目
	分子イメージングによる創薬支援特論	2		高度教養教育科目
	医療の質保証と安全管理	2		高度教養教育科目
	医療技術科学ゼミナールⅠ	4		高度教養教育科目
	医療技術科学ゼミナールⅡ	4		高度教養教育科目
選択科目	生命倫理・医療文化論	2		
	生涯保健学	2		
	保健情報論	2		
	臨床病態解析学特論	2		
	生命情報学特論	2		
	感染制御学特論	2		
	保健学ゼミナール	2		
	がん登録とがん予防	2		
	医療知財学総論	2		
	医療経済学総論	2		
	医療経営学総論	2		
	先進医療・臨床試験科学特論	2		
	看護工学Ⅰ	2		
	知的財産入門	1		
	再生医療特論	2		
	看護研究論	2		
	看護理論	2		
	看護教育論	2		
	医療政策とヘルスケアサービス	2		
	看護実践開発科学特論Ⅰ	2		
	看護実践開発科学特論Ⅱ	2		
	看護実践開発科学特論Ⅲ	2		
	看護実践開発科学特論Ⅳ	2		
	看護実践開発科学特論Ⅴ	2		
	母性ヘルスケア学特論Ⅰ	2		
	小児保健学特論	2		
	小児・家族看護学特論	2		
	家族看護援助論	2		
	公衆衛生看護学特論	2		
	看護管理科学特論	2		
	地域ヘルスプロモーション学特論	2		
	数理保健学特論	2		
	地域ヘルスケアシステム特論	2		
	看護管理・政策論	2		

麻酔学総論	2	
周麻酔薬理学	2	
周麻酔生理学	2	
麻酔器と麻酔管理	2	
周術期管理学	2	
麻酔学各論	2	
麻酔管理実践	2	
周術期管理実践	2	
外科手術と実践	2	
研究コミュニケーション力涵養1	2	卓越科目
研究コミュニケーション力涵養2	2	卓越科目
医歯薬学の入門1（医学）	2	卓越科目
医歯薬学の入門1（保健学）	2	卓越科目
医歯薬学の入門1（歯学）	2	卓越科目
医歯薬学の入門1（生命機能学）	2	卓越科目
医歯薬学の入門2（医学1）	2	卓越科目
医歯薬学の入門2（医学2）	2	卓越科目
医歯薬学の入門2（保健学）	2	卓越科目
医歯薬学の入門2（生命機能学）	2	卓越科目

【履修方法】

選択必修科目Aから8単位以上、高度国際性涵養教育科目として選択必修科目B※1から1単位以上、高度教養教育科目として選択必修科目C※2から1単位以上、合計30単位以上を修得しなければならない。

※1 選択必修科目Bについては、本表で定める科目の他、他学部、他研究科若しくは他専攻が高度国際性涵養教育科目として提供する科目又はリーディングプログラム科目若しくは国際交流科目として全学に提供される科目を履修し修得した単位数も充当される。

※2 選択必修科目Cについては、本表で定める科目の他、他学部、他研究科若しくは他専攻が高度教養教育科目として提供する科目又はリーディングプログラム科目若しくは大学院横断教育科目として全学に提供される科目を履修し修得した単位数も充当される。

注1）遺伝カウンセリングコースの履修を許可された者は、選択必修科目Aから備考欄「遺伝科目」を履修することができる。

注2）生命医科学の社会実装プログラムの履修を許可された者は、備考欄「卓越科目」を履修することができる。プログラム修了要件として、前期課程において、「研究コミュニケーション力涵養1」（2単位）、「研究コミュニケーション力涵養2」（2単位）、医歯薬学の入門1から2単位及び医歯薬学の入門2から2単位を修得しなければならない。

表 1-2 医療画像技術科学研究プログラム

区分	授業科目	単位	高度国際 性涵養 教育科目	備考
必修科目	医療技術科学ゼミナールⅠ	4		
	医療技術科学ゼミナールⅡ	4		
選択必修科目 A	国際疾病疫学	2	○	
	中医看護学	1	○	
	中医学概論	1	○	
	国際保健医療サイエンス特論	2	○	
	母性ヘルスケア学特論Ⅱ	2	○	
	母性ヘルスケア学特論Ⅲ	2	○	
	分子神経生理学特論	2	○	
	高度専門看護職教育とヘルスケアサービス	2	○	
選択必修科目 B	看護研究論	2		高度教養教育科目
	看護理論	2		高度教養教育科目
	看護教育論	2		高度教養教育科目
	医療政策とヘルスケアサービス	2		高度教養教育科目
	看護実践開発科学特論Ⅰ	2		高度教養教育科目
	看護実践開発科学特論Ⅱ	2		高度教養教育科目
	看護実践開発科学特論Ⅲ	2		高度教養教育科目
	看護実践開発科学特論Ⅳ	2		高度教養教育科目
	看護実践開発科学特論Ⅴ	2		高度教養教育科目
	母性ヘルスケア学特論Ⅰ	2		高度教養教育科目
	小児保健学特論	2		高度教養教育科目
	小児・家族看護学特論	2		高度教養教育科目
	家族看護援助論	2		高度教養教育科目
	公衆衛生看護学特論	2		高度教養教育科目
	看護管理科学特論	2		高度教養教育科目
	地域ヘルスプロモーション学特論	2		高度教養教育科目
	数理保健学特論	2		高度教養教育科目
	地域ヘルスケアシステム特論	2		高度教養教育科目
	看護管理・政策論	2		高度教養教育科目
	医療の質保証と安全管理	2		高度教養教育科目
	看護実践開発科学実験・実習	4		高度教養教育科目
	看護実践開発科学特別研究	4		高度教養教育科目
	生命育成看護科学実験・実習	4		高度教養教育科目
	生命育成看護科学特別研究	4		高度教養教育科目
	総合ヘルスプロモーション科学実験・実習	4		高度教養教育科目
	総合ヘルスプロモーション科学特別研究	4		高度教養教育科目

選択必修科目 C	生命倫理・医療文化論	2		
	生涯保健学	2		
	保健情報論	2		
	臨床病態解析学特論	2		
	生命情報学特論	2		
	感染制御学特論	2		
	保健学ゼミナール	2		
	がん登録とがん予防	2		
	医療知財学総論	2		
	医療経済学総論	2		
	医療経営学総論	2		
	先進医療・臨床試験科学特論	2		
	看護工学 I	2		
	知的財産入門	1		
	再生医療特論	2		
	ツインリサーチ特論	2		
	臨床画像診断学特論 I	1		
	臨床画像診断学特論 II	1		
	放射線制御・生物学特論 I	1		
	放射線制御・生物学特論 II	1		
	核医学特論 I	1		
	核医学特論 II	1		
	生体光学・医用画像工学特論 I	1		
	生体光学・医用画像工学特論 II	1		
	医療情報学特論	2		
	先端医用物理工学特論	2		
	脳機能画像解析学特論	2		
	生体システム学特論	2		
	再生発生医学特論	2		
	免疫機能解析学特論	2		
	細胞分子遺伝学特論	2		
	肝疾患代謝学	2		
	分子代謝病態学特論	2		
	分子腫瘍医学特論	2		
	生命機能解析学特論	2		
	スリープテクノロジー特論	2		
	病原微生物学特論	2		
	分子イメージングによる創薬支援特論	2		
	研究コミュニケーション力涵養 1	2		卓越科目
	研究コミュニケーション力涵養 2	2		卓越科目

	医歯薬学の入門 1（医学）	2		卓越科目
	医歯薬学の入門 1（保健学）	2		卓越科目
	医歯薬学の入門 1（歯学）	2		卓越科目
	医歯薬学の入門 1（生命機能学）	2		卓越科目
	医歯薬学の入門 2（医学 1）	2		卓越科目
	医歯薬学の入門 2（医学 2）	2		卓越科目
	医歯薬学の入門 2（保健学）	2		卓越科目
	医歯薬学の入門 2（生命機能学）	2		卓越科目

【履修方法】

必修科目 8 単位、高度国際性涵養教育科目として選択必修科目 A※1 から 1 単位以上、高度教養教育科目として選択必修科目 B※2 から 1 単位以上、選択必修科目 C から 20 単位以上、合計 30 単位以上を修得しなければならない。

※1 選択必修科目 A については、本表で定める科目の他、他学部、他研究科若しくは他専攻が高度国際性涵養教育科目として提供する科目又はリーディングプログラム科目若しくは国際交流科目として全学に提供される科目を履修し修得した単位数も充当される。

※2 選択必修科目 B については、本表で定める科目の他、他学部、他研究科若しくは他専攻が高度教養教育科目として提供する科目又はリーディングプログラム科目若しくは大学院横断教育科目として全学に提供される科目を履修し修得した単位数も充当される。

注) 生命医科学の社会実装プログラムの履修を許可された者は、備考欄「卓越科目」を履修することができる。プログラム修了要件として、前期課程において、「研究コミュニケーション力涵養 1」（2 単位）、「研究コミュニケーション力涵養 2」（2 単位）、医歯薬学の入門 1 から 2 単位及び医歯薬学の入門 2 から 2 単位を修得しなければならない。

表 1-3 医療検査技術科学研究プログラム

区分	授業科目	単位	高度国際 性涵養 教育科目	備考
選択必修科目 A	医療技術科学ゼミナールⅠ	4		
	医療技術科学ゼミナールⅡ	4		
	遺伝カウンセリング特別研究Ⅰ	4		遺伝科目
	遺伝カウンセリング特別研究Ⅱ	4		遺伝科目
選択必修科目 B	国際疾病疫学	2	○	
	中医看護学	1	○	
	中医学概論	1	○	
	国際保健医療サイエンス特論	2	○	
	母性ヘルスケア学特論Ⅱ	2	○	
	母性ヘルスケア学特論Ⅲ	2	○	
	分子神経生理学特論	2	○	
	高度専門看護職教育とヘルスケアサービス	2	○	
選択必修科目 C	看護研究論	2		高度教養教育科目
	看護理論	2		高度教養教育科目
	看護教育論	2		高度教養教育科目
	医療政策とヘルスケアサービス	2		高度教養教育科目
	看護実践開発科学特論Ⅰ	2		高度教養教育科目
	看護実践開発科学特論Ⅱ	2		高度教養教育科目
	看護実践開発科学特論Ⅲ	2		高度教養教育科目
	看護実践開発科学特論Ⅳ	2		高度教養教育科目
	看護実践開発科学特論Ⅴ	2		高度教養教育科目
	母性ヘルスケア学特論Ⅰ	2		高度教養教育科目
	小児保健学特論	2		高度教養教育科目
	小児・家族看護学特論	2		高度教養教育科目
	家族看護援助論	2		高度教養教育科目
	公衆衛生看護学特論	2		高度教養教育科目
	看護管理科学特論	2		高度教養教育科目
	地域ヘルスプロモーション学特論	2		高度教養教育科目
	数理保健学特論	2		高度教養教育科目
	地域ヘルスケアシステム特論	2		高度教養教育科目
	看護管理・政策論	2		高度教養教育科目
	医療の質保証と安全管理	2		高度教養教育科目
	看護実践開発科学実験・実習	4		高度教養教育科目
	看護実践開発科学特別研究	4		高度教養教育科目
	生命育成看護科学実験・実習	4		高度教養教育科目
	生命育成看護科学特別研究	4		高度教養教育科目

	総合ヘルスプロモーション科学実験・実習	4		高度教養教育科目
	総合ヘルスプロモーション科学特別研究	4		高度教養教育科目
選択必修科目 D	生命倫理・医療文化論	2		
	生涯保健学	2		
	保健情報論	2		
	臨床病態解析学特論	2		
	生命情報学特論	2		
	感染制御学特論	2		
	保健学ゼミナール	2		
	がん登録とがん予防	2		
	医療知財学総論	2		
	医療経済学総論	2		
	医療経営学総論	2		
	先進医療・臨床試験科学特論	2		
	看護工学 I	2		
	知的財産入門	1		
	再生医療特論	2		
	ツインリサーチ特論	2		
	臨床画像診断学特論 I	1		
	臨床画像診断学特論 II	1		
	放射線制御・生物学特論 I	1		
	放射線制御・生物学特論 II	1		
	核医学特論 I	1		
	核医学特論 II	1		
	生体光学・医用画像工学特論 I	1		
	生体光学・医用画像工学特論 II	1		
	医療情報学特論	2		
	先端医用物理工学特論	2		
	脳機能画像解析学特論	2		
	生体システム学特論	2		
	再生発生医学特論	2		
	免疫機能解析学特論	2		
	細胞分子遺伝学特論	2		
	肝疾患代謝学	2		
	分子代謝病態学特論	2		
	分子腫瘍医学特論	2		
	生命機能解析学特論	2		
	スリープテクノロジー特論	2		
	病原微生物学特論	2		
	分子イメージングによる創薬支援特論	2		

研究コミュニケーション力涵養 1	2	卓越科目
研究コミュニケーション力涵養 2	2	卓越科目
医歯薬学の入門 1（医学）	2	卓越科目
医歯薬学の入門 1（保健学）	2	卓越科目
医歯薬学の入門 1（歯学）	2	卓越科目
医歯薬学の入門 1（生命機能学）	2	卓越科目
医歯薬学の入門 2（医学 1）	2	卓越科目
医歯薬学の入門 2（医学 2）	2	卓越科目
医歯薬学の入門 2（保健学）	2	卓越科目
医歯薬学の入門 2（生命機能学）	2	卓越科目

【履修方法】

選択必修科目 A から 8 単位以上、高度国際性涵養教育科目として選択必修科目 B※ 1 から 1 単位以上、高度教養教育科目として選択必修科目 C※ 2 から 1 単位以上、選択必修科目 D から 20 単位以上、合計 30 単位以上を修得しなければならない。

※ 1 選択必修科目 B については、本表で定める科目の他、他学部、他研究科若しくは他専攻が高度国際性涵養教育科目として提供する科目又はリーディングプログラム科目若しくは国際交流科目として全学に提供される科目を履修し修得した単位数も充当される。

※ 2 選択必修科目 C については、本表で定める科目の他、他学部、他研究科若しくは他専攻が高度教養教育科目として提供する科目又はリーディングプログラム科目若しくは大学院横断教育科目として全学に提供される科目を履修し修得した単位数も充当される。

注 1）遺伝カウンセリングコースの履修を許可された者は、選択必修科目 A から備考欄「遺伝科目」を履修することができる。

注 2）生命医科学の社会実装プログラムの履修を許可された者は、備考欄「卓越科目」を履修することができる。プログラム修了要件として、前期課程において、「研究コミュニケーション力涵養 1」（2 単位）、「研究コミュニケーション力涵養 2」（2 単位）、医歯薬学の入門 1 から 2 単位及び医歯薬学の入門 2 から 2 単位を修得しなければならない。

表 1-4 がん専門医療人材養成プログラム高度がん看護専門看護師コース

区分	授業科目	単位	高度国際 性涵養教 育科目	備考
必修科目	臨床腫瘍学総論Ⅰ	1	○	
	がんの病態生理学各論	2		
	看護研究論	2		
	看護理論	2		
	看護倫理	2		
	コンサルテーション論	2		
	臨床薬理学	2		
	ヘルスアセスメント論	2		
	臨床病態生理学総論	2		
	がん看護方法論Ⅰ	2		
	がん看護方法論Ⅱ	2		
	がん看護方法論Ⅲ	2		
	がん看護方法論Ⅳ	2		
	がん看護実践特論Ⅰ	2		
	がん看護実践特論Ⅱ	2		
	がん看護実践実習Ⅰ	2		
	がん看護実践実習Ⅱ	2		
	がん看護実践実習Ⅲ	2		
	がん治療看護実践実習Ⅰ	2		
	がん治療看護実践実習Ⅱ	2		
	がん看護実践研究	2		
選択必修科目 A	看護教育論	2		
	看護管理・政策論	2		
選択必修科目 B	医療協働術（サイコオンコロジーと健康心理学）	2		高度教養教育科目
	ゲノム医薬品学特論	1		高度教養教育科目
	先進がん薬物療法副作用学特論	1		高度教養教育科目
	先進緩和医療薬物学特論	1		高度教養教育科目

【履修方法】

必修科目 4 1 単位（高度国際性涵養教育科目 2 単位を含む。）、選択必修科目 A から 2 単位以上、高度教養教育科目として選択必修科目 B から 1 単位以上、合計 4 4 単位以上を修得しなければならない。

表 1-5 がん専門医療人材養成プログラム先端医学物理コース

区分	授業科目	単位	高度国際 性涵養教 育科目	備考
必修科目	がんの病態生理学 放射線基礎物理学 放射線診断物理学 治療物理学 高精度放射線治療 高精度外部放射線治療実習 小線源治療実習 医療技術科学ゼミナールⅠ 医療技術科学ゼミナールⅡ	2 2 2 2 2 4 4 4 4	○	
選択必修科目 A	医療協働術（サイコオンコロジーと健康心理学） 先進がん薬物療法副作用学特論 先進緩和医療薬物学特論 ゲノム医薬品学特論	2 1 1 1		高度教養教育科目 高度教養教育科目 高度教養教育科目 高度教養教育科目
選択必修科目 B	がんの病態生理学各論 放射線基礎物理学実習 がん検診と地域保健活動 臨床がん薬理学 緩和医療学概論 臨床腫瘍学総論Ⅰ 臨床腫瘍学総論Ⅱ 先端医用物理工学特論 放射線制御・生物学特論Ⅰ 放射線制御・生物学特論Ⅱ 粒子線治療	2 2 2 2 2 1 1 2 1 1 2	○	

【履修方法】

必修科目 26 単位（高度国際性涵養教育科目 2 単位を含む。）、高度教養教育科目として選択必修科目 A から 1 単位以上、選択必修科目 A 及び B から 3 単位以上、合計 30 単位以上を修得しなければならない。

表 1-6 がん専門医療人材養成プログラムゲノム世代細胞検査高度診断コース

区分	授業科目	単位	高度国際 性涵養教 育科目	備考
必修科目	がんの病態生理学	2	○	
	がんの病態生理学各論	2		
	病理細胞診断学特論Ⅰ	2		
	病理細胞診断学特論Ⅱ	2		
	分子病理学特論	2		
	病理細胞診断学実習Ⅰ	3		
	病理細胞診断学実習Ⅱ	3		
	病理細胞診断学実習Ⅲ	3		
	病理細胞診断学実習Ⅳ	3		
	医療技術科学ゼミナールⅠ	4		
	医療技術科学ゼミナールⅡ	4		
選択必修科目 A	医療協働術（サイコオンコロジーと健康心理学）	2		高度教養教育科目
	先進がん薬物療法副作用学特論	1		高度教養教育科目
	先進緩和医療薬物学特論	1		高度教養教育科目
	ゲノム医薬品学特論	1		高度教養教育科目

【履修方法】

必修科目 30 単位（高度国際性涵養教育科目 2 単位を含む。）、高度教養教育科目として選択必修科目 A から 1 単位以上、合計 31 単位以上を修得しなければならない。

表 1-7 がん専門医療人材養成プログラム分子ゲノムコース

区分	授業科目	単位	高度国際 性涵養 教育科目	備考
必修科目	分子ゲノムセミナーⅠ	2	○	
	分子ゲノムセミナーⅡ	2		
	分子ゲノム実習Ⅰ	4		
	分子ゲノム実習Ⅱ	4		
	医療技術科学ゼミナールⅠ	4		
	医療技術科学ゼミナールⅡ	4		
	がんの病態生理学各論	2		
選択必修科目 A	先進がん薬物療法副作用学特論	1		高度教養教育科目
	先進緩和医療薬物学特論	1		高度教養教育科目
	ゲノム医薬品学特論	1		高度教養教育科目
選択科目	がんの病態生理学	2	○	
	臨床病態解析学特論	2		
	分子腫瘍医学特論	2		
	生命機能解析学特論	2		
	国際疾病疫学	2		
	分子神経生理学特論	2		
	生命情報学特論	2		
	感染制御学特論	2		
	先進医療・臨床試験科学特論	2		
	再生医療特論	2		
	臨床画像診断学特論Ⅰ	1		
	臨床画像診断学特論Ⅱ	1		
	放射線制御・生物学特論Ⅰ	1		
	放射線制御・生物学特論Ⅱ	1		
	生体光学・医用画像工学特論Ⅰ	1		
	生体光学・医用画像工学特論Ⅱ	1		
	医療情報学特論	2		
	先端医用物理工学特論	2		
	脳機能画像解析学特論	2		
	生体システム学特論	2		
	再生発生医学特論	2		
	免疫機能解析学特論	2		
	細胞分子遺伝学特論	2		
	肝疾患代謝学	2		
	分子代謝病態学特論	2		
	スリープテクノロジー特論	2		

	病原微生物学特論	2		
	分子イメージングによる創薬支援特論	2		

【履修方法】

必修科目 22 単位 (高度国際性涵養教育科目 2 単位を含む。)、高度教養教育科目として選択必修科目 A から 1 単位以上、合計 30 単位以上を修得しなければならない。

○ナースプラクティショナー教育プログラム内規

(趣旨)

第1条 この内規は、医学系研究科保健学専攻博士前期課程ナースプラクティショナー教育プログラム（以下「本プログラム」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(選考方法)

第2条 本プログラムの履修を許可する学生は、博士前期課程入学試験において本プログラムで合格し、看護師免許を有する者とする。

2 前項の規定により本プログラムの履修を許可された学生(以下「履修学生」という)が本プログラムの履修を辞退した場合、その補充は行わない。

(履修方法)

第3条 履修学生は、別表（表1－8）に定める授業科目の中から所定の単位を修得しなければならない。

2 実習科目については、実習先の受入れ定員の都合上、入学時および入学後の成績によって履修が許可されないことがある。

3 履修学生が研究指導教員を変更した場合も、本プログラムの履修を継続できる。

4 履修学生が希望した場合、(教授会の議を経て)統合保健看護科学研究プログラムに変更することができる。

(プログラム修了)

第4条 履修学生が大阪大学大学院医学系研究科規程第5条第8項の規定に従い所定の単位を修得した場合は、教授会の議を経て本プログラムの修了を認定する。

(ナースプラクティショナー（JANPU-NP）資格認定審査受験資格)

第5条 履修学生が第4条の規定により本プログラムを修了したこと、および臨床経験年数の基準を満たしたことをもって、ナースプラクティショナー（JANPU-NP）資格認定審査受験資格を得るものとする。

附 則

この内規は、令和4年4月1日から施行する。

表1-8 ナースプラクティショナー教育プログラム

区分	授業科目	単位	高度国際 性涵養 教育科目	備考
必修科目	看護研究論	2	○	高度教養教育科目
	看護理論	2		
	看護倫理	2		
	コンサルテーション論	2		
	臨床薬理学	2		
	ヘルスアセスメント論	2		
	臨床病態生理学総論	2		
	高度専門看護職教育とヘルスケアサービス	2		
	予防対策病態論	1		
	救急医療特論	2		
	老年・総合診療特論	2		
	ヘルスプロモーション総論	2		
	医療の質保証と安全管理	2		
	小児・家族看護学総論	2		
	高度実践看護学特論Ⅰ	2		
	高度実践看護学特論Ⅱ	2		
	高度実践看護学特論Ⅲ	2		
	高度実践看護学演習Ⅰ	2		
	高度実践看護学演習Ⅱ	2		
	高度実践看護学実習Ⅰ	2		
	高度実践看護学実習Ⅱ	2		
	高度実践看護学実習Ⅲ	2		
	高度実践看護学実習Ⅳ	2		
	高度実践看護学実習Ⅴ	2		
選択必修科目	看護実践開発科学実験・実習	4		
	看護実践開発科学特別研究	4		
	生命育成看護科学実験・実習	4		
	生命育成看護科学特別研究	4		
	総合ヘルスプロモーション科学実験・実習	4		
	総合ヘルスプロモーション科学特別研究	4		

【履修方法】

必修科目 47 単位(高度国際性涵養教育科目 2 単位及び高度教養教育科目 2 単位を含む)及び選択必修科目から 8 単位以上、
合計 55 単位以上を修得しなければならない。

(2) 履修コース

前期課程の学位プログラムのうち、統合保健看護科学研究プログラムには3つの履修コースが、医療検査技術科学研究プログラムには1つの履修コースがあります。修了要件を満たせば修士の学位とともに、コース別に該当する資格の取得が可能です（表2）。ただし、各コースの履修については条件があり、詳しくは内規に定められています。

【修了要件】

次の2要件を満たすこと

- ・学位プログラムを修了する
- ・履修コースで定められた授業科目から、所定の単位を修得する

表2 前期課程の学位プログラム別の履修コース

学位プログラム名	履修コース名	取得資格
統合保健看護科学研究プログラム	保健師教育コース	保健師国家試験受験資格
	助産師教育コース	助産師国家試験受験資格
	遺伝カウンセリングコース	認定遺伝カウンセラー 認定試験受験資格
医療検査技術科学研究プログラム	遺伝カウンセリングコース	

○ 保健師教育コース内規

保健学専攻博士前期課程保健師教育コース内規

(趣旨)

第1条 この内規は、医学系研究科保健学専攻博士前期課程保健師教育コース（以下「本コース」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(選考方法)

第2条 本コースの履修を許可する学生は、博士前期課程入学試験において本コースで合格し、看護師免許を有する者とする。

2 本コースの履修者数に欠員が生じた場合、その補充は行わない。

(履修方法)

第3条 第2条の規定により本コースの履修を許可された学生（以下「履修学生」という。）は、別表に定める授業科目の中から所定の単位を修得しなければならない。

2 履修学生が指導教員を変更した場合も、本コースの履修を継続できる。

(コース修了)

第4条 履修学生が次の各号の要件をすべて満たした場合は、教授会の議を経て本コースの修了を認定する。

(1) 大阪大学大学院医学系研究科規程第5条第4項の規定に従い所定の単位を修得し、博士前期課程を修了すること。

(2) 第3条の規定に従い所定の単位を修得すること。

(国家試験受験資格)

第5条 履修学生が第4条の規定により本コースを修了したことをもって、保健師国家試験受験資格を得るものとする。

附 則

この内規は、令和2年2年13日から施行し、平成30年4月1日から適用する。

附 則

1. この改正は、令和4年4年1日から施行する。

2. 令和4年3月31日現在在学中の者については、改正後の別表にかかわらず、なお従前の例による。

別表

区分		授業科目	配当年次	単位	備考
保健師教育コース必修科目	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学原論	1	2	
		公衆衛生看護実践開発学Ⅰ	1	2	
		公衆衛生看護実践開発学Ⅱ	1	2	
		公衆衛生看護実践開発演習	1	2	
		家族看護援助論	1	2	
		公衆衛生看護診断・活動展開演習	1	2	
		地域健康危機管理学	1	2	
		公衆衛生看護管理学	1	2	
		公衆衛生看護学アドバンス	2	2	
		予防対策論	1	2	
		国際健康政策学	1	2	
		疫学各論	1	2	
		医学統計学総論	1	2	
	臨地実習	公衆衛生看護実践開発実習	1	2	
		公衆衛生看護診断・活動展開実習	1	2	
		公衆衛生看護管理実習	1	1	

【履修方法】

必修科目 31 単位を修得すること。

○ 助産師教育コース内規

保健学専攻博士前期課程助産師教育コース内規

(趣旨)

第1条 この内規は、医学系研究科保健学専攻博士前期課程助産師教育コース（以下「本コース」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(選考方法)

第2条 本コースの履修を許可する学生は、博士前期課程入学試験において本コースで合格し、看護師免許を有する者とする。

2 本コースの履修者数に欠員が生じた場合、その補充は行わない。

(履修方法)

第3条 第2条の規定により本コースの履修を許可された学生（以下「履修学生」という。）は、別表に定める授業科目の中から所定の単位を修得しなければならない。

2 履修学生が指導教員を変更した場合も、本コースの履修を継続できる。

(コース修了)

第4条 履修学生が次の各号の要件をすべて満たした場合は、教授会の議を経て本コースの修了を認定する。

(1) 大阪大学大学院医学系研究科規程第5条第4項の規定に従い所定の単位を修得し、博士前期課程を修了すること。

(2) 第3条の規定に従い所定の単位を修得すること。

(国家試験受験資格)

第5条 履修学生が第4条の規定により本コースを修了したことをもって、助産師国家試験受験資格を得るものとする。

附 則

この内規は、令和2年2月13日から施行し、平成30年4月1日から適用する。

附 則

3. この改正は、令和4年4月1日から施行する。

4. 令和4年3月31日現在在学中の者については、改正後の別表にかかわらず、なお従前の例による。

別表

区分		授業科目	配当年次	単位	備考
助産師教育コース必修科目	助産学	助産学概論	1	1	
		ウイメンズヘルス	1	1	
		周産期生理病態学	1	2	
		新生児生理病態学	1	2	
		助産診断・技術学Ⅰ	1	2	
		助産診断・技術学Ⅱ	1	4	
		助産診断・技術学Ⅲ	1	1	
		周産期ハイリスク管理	1	1	
		女性と母子の薬理	1	1	
		周産期技術演習	1	1	
		地域・国際母子保健学	1～2	2	*
		助産管理学	1	2	
	臨地実習	周産期助産学実習Ⅰ	1	3	
		周産期助産学実習Ⅱ	1	5	
		ウイメンズヘルス・NICU 実習	1	1	
		助産マネジメント実習	1	1	
		総合管理・継続実習	1～2	1	*

【履修方法】

必修科目 31 単位を修得すること。

備考欄「*」の科目は、1 年～2 年次に継続して実施する科目である。

○ 遺伝カウンセリングコース内規

保健学専攻博士前期課程遺伝カウンセリングコース内規

(趣旨)

第1条 この内規は、医学系研究科保健学専攻博士前期課程遺伝カウンセリングコース（以下「本コース」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(選考方法)

第2条 本コースの履修を許可する学生は、博士前期課程入学試験において本コースで合格した者とする。

2 本コースの履修者数に欠員が生じた場合、その補充は行わない。

(履修方法)

第3条 第2条の規定により本コースの履修を許可された学生（以下「履修学生」という。）は、別表に定める授業科目の中から所定の単位を修得しなければならない。

2 履修学生が指導教員を変更した場合（本コース指導教員に限る）も、本コースの履修を継続することができるものとする。

(コース修了)

第4条 履修学生が次の各号の要件をすべて満たした場合は、教授会の議を経て本コースの修了を認定する。

(1) 大阪大学大学院医学系研究科規程第5条第1項の規定に従い所定の単位を修得し、博士前期課程を修了すること。

(2) 第3条の規定に従い所定の単位を修得すること。

(認定遺伝カウンセラー認定試験の受験資格)

第5条 履修学生が第4条の規定により本コースを修了したことをもって、認定遺伝カウンセラー認定試験の受験資格を得るものとする。

附 則

この内規は、令和2年4月1日から施行する。

別表

区分		授業科目	配当年次	単位	備考
必修科目		応用基礎人類遺伝学	1	1	
		人類遺伝学	1～2	2	隔年開講
		臨床遺伝学講義	1	1	
		基礎臨床遺伝学演習	1	1	
		遺伝情報論演習	1	1	
		生命倫理・医療文化論	1	2	
		応用ライフサイエンス・医療の倫理	1	2	
		応用臨床遺伝学	1	1	
		遺伝カウンセリング概論	1	1	
		遺伝カウンセリング講義	1	1	
		遺伝カウンセリング演習	1	2	臨地実習科目
		遺伝カウンセリング実習	1～2	6	臨地実習科目
選択必修科目	A	応用遺伝学講義	1	1	
		応用遺伝学演習	1	2	
	B	応用生命工学講義	1	1	
		応用生命工学演習	1	2	

【履修方法】

必修科目 21 単位、選択必修科目から A 又は B の組合せで 3 単位、合計 24 単位を修得すること。

(3) 履修科目の登録と成績

各学位プログラム及び各履修コースで定める履修方法に従い、指導教員と相談のうえ履修する科目を決定し、必ず所定の期間内にKOANから履修登録を行ってください。履修科目の登録手続きが未実施の場合は、当該科目の単位認定が行われませんので注意してください。

成績や単位修得状況もKOANで確認できます。なお、成績評価について異議がある場合は、成績発表日以降3日以内に限り、成績異議申立を行うことができます。

(4) 長期履修制度

長期履修制度は、標準終業年限を超えた一定の期間で計画的に教育課程を履修し、課程を修了することを認める制度です。

詳細については、保健学専攻HPをご覧ください。

<https://sahswww.med.osaka-u.ac.jp/jpn/procedure/gakui-shinsei-longterm.html>

3-2. 後期課程の教育

(1) 学位プログラム

後期課程には3つの教育課程からなる学位プログラムがあり（表3）、修了要件を満たせば博士の学位が授与されます。

【修了要件】

次の3要件をすべて満たすこと

- ・学位プログラムが定める授業科目から所定の単位を修得する
- ・3年以上在学する※
- ・必要な研究指導を受け博士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格する

※ 研究科教授会が優れた業績を上げたと認める者については、修士課程又は博士前期課程の在学期間と通算して3年以上在学すれば足りるものとする

表3 後期課程の学位プログラム

学位プログラム名	学位	詳細
保健学研究プログラム	博士(看護学)又は博士(保健学)	表3-1
がん専門医療人材養成プログラム 先進ゲノム医学物理コース	博士(保健学)	表3-4
臨床工学技士指導者育成プログラム	博士(保健学)	表3-5

授業科目の詳細についてはKOANに示されている授業計画（以下、シラバス）を参照してください。

表 3-1 保健学研究プログラム

区分	授業科目	単位	備考
選択必修科目 A	周手術期管理学特講	2	
	老年看護学特講	2	
	がん看護実践開発科学特講	2	
	慢性病看護学特講	2	
	精神保健看護学特講	2	
	母性胎児科学特講	2	
	母性ヘルスケア学特講 I	2	
	母性ヘルスケア学特講 II	2	
	成育小児科学特講	2	
	小児・家族看護学特講	2	
	公衆衛生看護学特講	2	
	看護管理科学特講	2	
	地域ヘルスプロモーション特講	2	
	包括看護科学特講	2	
	地域ヘルスケアシステム特講	2	
	多職種チーム医療に基づくがん医療特講	2	
	トレーサー情報解析学特講	2	
	医用光エレクトロニクス特講	2	
	応用画像処理工学特講	2	
	医用画像工学特講	2	
	放射線腫瘍学特講	2	
	生体分子解析学特講	2	
	神経病態解析学特講	2	
	環境生体機能学特講	2	
	遺伝子発現制御学特講	2	
	病態検査診断学特講	2	
	組織細胞病態解析学特講	2	
	分子細胞制御学特講	2	
	分子病態診断学特講	2	
	消化器病態診断学特講	2	
選択必修科目 B	周手術期管理学特講演習	2	
	老年看護学特講演習	2	
	がん看護実践開発科学特講演習	2	
	慢性病看護学特講演習	2	
	精神保健看護学特講演習	2	
	母性胎児科学特講演習	2	
	母性ヘルスケア学特講演習 I	2	
	母性ヘルスケア学特講演習 II	2	

	成育小児科学特講演習	2	
	小児・家族看護学特講演習	2	
	公衆衛生看護学特講演習	2	
	看護管理科学特講演習	2	
	地域ヘルスプロモーション特講演習	2	
	包括看護科学特講演習	2	
	地域ヘルスケアシステム特講演習	2	
	多職種チーム医療に基づくがん医療特講演習	2	
	トレーサー情報解析学特講演習	2	
	医用光エレクトロニクス特講演習	2	
	応用画像処理工学特講演習	2	
	医用画像工学特講演習	2	
	放射線腫瘍学特講演習	2	
	生体分子解析学特講演習	2	
	神経病態解析学特講演習	2	
	環境生体機能学特講演習	2	
	遺伝子発現制御学特講演習	2	
	病態検査診断学特講演習	2	
	組織細胞病態解析学特講演習	2	
	分子細胞制御学特講演習	2	
	分子病態診断学特講演習	2	
	消化器病態診断学特講演習	2	
選択必修科目 C	統合保健看護科学特別研究Ⅰ	4	
	統合保健看護科学特別研究Ⅱ	4	
	統合保健看護科学特別研究Ⅲ	4	
	医療技術科学特別研究Ⅰ	4	
	医療技術科学特別研究Ⅱ	4	
	医療技術科学特別研究Ⅲ	4	
選択科目	先進医療・臨床試験科学特講	2	
	先進医療・臨床試験科学特講演習	2	

【履修方法】

選択必修科目 A から 2 単位以上、選択必修科目 B から 2 単位以上、選択必修科目 C から 4 単位以上、合計 10 単位以上を修得しなければならない。

表 3-4 がん専門医療人材養成プログラム

区分	授業科目	単位	備考
先進ゲノム医学 物理コース必修 科目	放射線治療物理学特講	2	
	放射線治療物理学特講演習	2	
	医学物理臨床実習	2	
	医学物理特別研究	4	

【履修方法】

必修科目 10 単位を修得しなければならない。放射線治療物理学特講演習は、放射線治療物理学特講の単位を修得しなければ履修することができない。

表 3-5 臨床工学技士指導者育成プログラム

区分	授業科目	単位	備考
選択必修科目	手術・麻酔関連技術学	2	
	循環器内科関連技術学	2	
	体外循環 MCS(Mechanical Cardiac Support) 技術学	2	
	呼吸治療・内視鏡技術学	2	
	血液浄化技術学	2	

【履修方法】

臨床工学技士指導者育成プログラムを履修する学生は、別表 3-1 に定める授業科目のうち選択必修科目 A から 2 単位以上、選択必修科目 B から 2 単位以上、選択必修科目 C から 4 単位以上、別表 3-5 に定める授業科目の中から 6 単位、合計 14 単位以上を修得しなければならない。

(2) 履修科目の登録と成績

各学位プログラムで定める履修方法に従い、指導教員と相談のうえ履修する科目を決定し、必ず所定の期間内にKOANから履修登録を行ってください。履修科目の登録手続きが未実施の場合は、当該科目の単位認定が行われませんので注意してください。

成績や単位修得状況もKOANで確認できます。なお、成績評価について異議がある場合は、成績発表日以降3日以内に限り、成績異議申立を行うことができます。

なお、「選択科目」については、本表（表 3-1）で定める科目の他、大学院横断教育科目（COデザインセンター科目）、博士課程教育リーディングプログラム科目、国際交流科目、本研究科の他の専攻の授業科目又は本学大学院の他の研究科の授業科目の単位を充当することができます。

(3) 長期履修制度

長期履修制度は、標準終業年限を超えた一定の期間で計画的に教育課程を履修し、課程を修了することを認める制度です。

詳細については、保健学専攻 HP をご覧ください。

<https://sahswww.med.osaka-u.ac.jp/jpn/procedure/gakui-shinsei-longterm.html>

3-3. 博士課程の教育

(1) 学位プログラム

博士課程には2つの5年制プログラムがあり（表4）、修了要件を満たせば博士の学位が授与されます。なお、博士前期課程の修了で、修士の学位が授与されます。

【修了要件】 次の3要件をすべて満たすこと ・学位プログラムが定める授業科目から所定の単位を修得する ・博士前期課程で2年[*]、博士後期課程で3年、計5年以上在学する^{**} ・必要な研究指導を受け修士論文[*]及び博士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格する ※ 先導的量子ビーム応用卓越大学院プログラムについては、博士前期課程の在学を必須としない ※※研究科教授会が優れた業績を上げたと認める者については、修士課程又は博士前期課程の在学期間と通算して3年以上在学すれば足りるものとする
--

表4 博士課程の学位プログラム

学位プログラム名	学位	詳細
生命医科学の社会実装プログラム	博士前期課程： 修士(看護学)又は修士(保健学)	表1-1 表1-2 表1-3
	博士後期課程： 博士(看護学)又は博士(保健学)	表3-2
先導的量子ビーム応用卓越大学院プログラム	博士後期課程： 博士(看護学)又は博士(保健学)	表3-3 [*]

授業科目の詳細についてはKOANに示されている授業計画（以下、シラバス）を参照してください。

*表3-3に定める授業科目を博士前期課程在学中に修了要件外として修得した場合、改めて博士後期課程で修得する必要はない。

表 3-2 生命医科学の社会実装プログラム授業科目表（博士後期課程）

区分	授業科目	単位	備考
必修科目	異分野領域実習 1	2	
	異分野領域実習 2	2	
	市場調査演習	2	
	知財戦略演習	2	
	規制科学演習	2	
	社会実装実践訓練	2	

【履修方法】

生命医科学の社会実装プログラムを履修する学生は、別表 3-1 に定める授業科目のうち選択必修科目 A から 2 単位以上、選択必修科目 B から 2 単位以上、選択必修科目 C から 4 単位以上、別表 3-2 に定める授業科目の中から 1 2 単位、合計 2 0 単位以上を修得しなければならない。

表 3-3 先導的量子ビーム応用卓越大学院プログラム

区分	授業科目		単位	備考
必修科目	量子ビーム実践研修（国内）		2	
	量子ビーム実践研修（海外）		2	
	量子ビーム学際交流 1		0.5	
	量子ビーム学際交流 2		0.5	
	量子ビーム学際交流 3		0.5	
選択必修科目	俯瞰力・社会実装力涵養科目群			別に定める授業科目から1単位以上取得すること
	量子ビーム応用科目	量子ビーム情報系科目群		別に定める授業科目から4単位以上取得すること
		量子ビーム医学系科目群		
		量子ビーム応用科目群		
		量子物理応用科目群		
		量子ビーム化学系科目群		
		量子機能分子創製科目群		
		量子ビーム高分子科学系科目群		
		量子ビーム総合基礎科目群		
選択科目	量子ビーム実践英語科目群			別に定める授業科目から自由選択
	量子社会学連携科目群			

【履修方法】

先導的量子ビーム応用卓越大学院プログラム及び保健学研究プログラムを履修する学生は、表 3-1 に定める授業科目のうち選択必修科目 A から 2 単位以上、選択必修科目 B から 2 単位以上、選択必修科目 C から 4 単位以上、表 3-3 に定める授業科目のうち 10.5 単位以上、合計 18.5 単位以上を修得しなければならない。ただし、前述にかかわらず、先導的量子ビーム応用卓越大学院プログラム及びがん専門医療人材養成プログラムを履修する学生は、別表 3-3 に定める授業科目の中から 10.5 単位以上を修得し、かつ、別表 3-4 に定める授業科目の中から所定の単位を修得しなければならない。

表 3-3 の詳細については、下記 HP を参照すること。

<https://www.rcnp.osaka-u.ac.jp/pqba/curriculum/course/index.html>

(2) 履修科目の登録と成績

学位プログラムで定める履修方法に従い、指導教員と相談のうえ履修する科目を決定し、必ず所定の期間内に KOAN から履修登録を行ってください。履修科目の登録手続きが未実施の場合は、当該科目の単位認定が行われませんので注意してください。

成績や単位修得状況も KOAN で確認できます。なお、成績評価について異議がある場合は、成績発表日以降 3 日以内に限り、成績異議申立を行うことができます。

(3) 長期履修制度

長期履修制度は、標準終業年限を超えた一定の期間で計画的に教育課程を履修し、課程を修了することを認める制度です。

詳細については、保健学専攻 HP をご覧ください。

<https://sahswww.med.osaka-u.ac.jp/jpn/procedure/gakui-shinsei-longterm.html>

4. 横断型教育

(1) 大学院副専攻プログラム、大学院等高度副プログラム

大阪大学では、大学院教育における高度教養教育の更なる展開に向けて導入された「学際融合・社会連携を指向した双翼型大学院教育システム（Double-Wing Academic Architecture、DWAA）」を推進しており、その一環として、大学院に入学した学生を中心に、学生が所属する主専攻の教育課程以外の教育プログラムを履修できる「大学院副専攻プログラム」、「大学院等高度副プログラム」を提供しています。

詳しくは、本学 HP をご覧ください。

<https://www.celas.osaka-u.ac.jp/senior/>

(2) 学際融合教育科目

本学における横断型教育（学部・研究科の枠を超えた学び）の、より一層の充実を目指して、複眼的視野を涵養するための授業科目として「学際融合教育科目」を設置しています。

詳しくは、本学 HP をご覧ください。

<https://www.celas.osaka-u.ac.jp/senior/#oudan>

(3) コミュニケーションデザイン科目及び C0 デザイン科目

「コミュニケーションデザイン科目」は、対話することを通して、課題を発見し、ともにその解決をめざし、社会のなかで実践するための基礎的な教育プログラムとして学部生、大学院生を対象に開講されています。

また、「C0 デザイン科目」は、さまざまな現実の社会課題の解決を目指したアドバンスト・プログラムとして、より系統的に社会実践力を修養するための科目群として大学院学生を対象に開かれています。

詳しくは、本学 HP をご覧ください。

<https://www.cscd.osaka-u.ac.jp/program/>

5. 学則・規程

大阪大学大学院学則 URL

https://www.osaka-u.ac.jp/jp/about/kitei/reiki_honbun/u035RG00000002.html

大阪大学大学院医学系研究科規程 URL

https://www.osaka-u.ac.jp/jp/about/kitei/reiki_honbun/u035RG000000184.html